

後年ニ附證拠差入申候一札

一去ル末年

勝田大社天火^{ニ而}御焼失後御造営御取懸り

無之内、申年凶作^{ニ付}相延居申候處、世上融通

已前^{ニ復し}兼容易^ニ再建之相談も発端

存付候面々^茂無之處、兼々隱徳之志厚鹿嶋

次郎右衛門殿誠実懇切之和談被取扱、誠^ニ

神慮之なさしむる所^与一統感服仕候^{ニ付}

一昨丑年月日を経ずして速^ニ町在和談相調

在中人夫之儀^茂案外之出精申出候儀^者

全次郎右衛門殿旧年積善余徳と一統帰服

いたし申候故之儀、則明ル寅春より御取懸り^ニ

相成候處、往古礎立之砌諸職人共出所不分^ニ

候得共、其後諸繕之節^者、町方職人而已^{ニ而}

営来候、然ル處、此度^者礎立^{ニ而}大造事^{ニ付}

右次郎右衛門殿計を以町在職人入込^ニ差出候

尤已後宇葺替又^者御破損所繕等之砌

是迄之通町方職人^{而已^{ニ而}}相宮候儀約

并^ニ此度大数之人夫致出精候得共是又已後ハ

先規之通差出候儀約^{ニ而}相済可申之處、懸違

之儀も有之御両所様御心配被下、右之通

^{ニ而}相済候處相違無御座候、仍^而為後年之書附

差入申候處如件

勝田大社氏下

宮庄屋惣代

勝田村祐三郎判

米原村儀右衛門判

和田村喜三右衛門判

竹之内村宗右衛門判

大崎村喜右衛門判

天保十四年卯十一月

大谷九右衛門殿

深田三郎右衛門殿

(裏書)

右本書十一月十二日相見候_ニ付
写取置岡本屋伊右衛門を以
鹿出へ廻し置事